雲石雜記 全

附錄

特
1曾5
486
4上

宝玉堂藏書

安政二卯年十月二日夜
大地震家潰類焼繪
図并場所附

門 1 5
486
巻 4

ゆるぎなぎ
時代要覽
仁義礼智忠信孝悌八徳の中に孝行をもつて
第一とす人界をはなれて高位高録ハ禽獸にも
劣る鳩は礼を鳥は羊ハひざまづ
いて乳を弧むなどや
付
また
ちか
上野
下谷
牛込
市ヶ谷
四ツ谷
両国橋
西両国
大川
本所
浅草
田

ゆ出
しる人
こそやく
國えの
秋まよ
多ゐを
ちらせ
てあら
さまべ

ひさ安政二年卯の十月二日の岩時
辺傾よ大地震申ノ刻小さ千住宿申ノ
刻れ山堀ゆ出る社吉京ハ口ノ町武丁目よ
り失して焼ら焼大青寺まへ田町馬ら
焼南ら方ら焼ら花川ら片伝焼山の石
垣ら矢町まら焼芝ら三ら焼生死
山洪多ら出堂つがるく傾きも失ま

其八大士の智力是ぐ〻堺四塔中坊社
寺往古より繁れる茶屋丁無末丁大雅猿
弱船丁是ぐ〻町筋ぐ〻弱船堂めぐる尾崎
丁迄一面ぐ〻ぐれ寺ハ坂本坊
ぐべやけ旦那かぐ〻山寺寺大雅猿
ぐ〻坊ぐ〻繁大坂坊つぐるぐ〻ぐ〻方ぐ
七坂丁中程ぐ〻寺ハ坂本町筋ぐ

ぐ〻筋ぐ〻坂ぐ〻山内寺ぐ〻繁れ寺寺天神寺
地のぐ〻ぐ〻仲町ぐ〻ぐ〻ぐれ表通ぐ〻もく
つれぐ〻寺ぐ〻ぐ〻唐山新寺ぐ〻筋ぐ〻口や
丁代町ぐ〻一町目ぐ〻ぐ〻ぐ〻ぐ〻寺孫坂坊寺
豊ぐ〻ぐ〻特やけ本ぐ〻ぐ〻ぐ〻筋ぐ〻切通
山大坂寺ぐ〻加賀寺相坊ぐ〻寺ぐ〻ぐ〻清
ぐ〻ぐ〻ぐ〻天神の社ぐ〻ぐ〻雅猿寺ぐ〻

橋ながつてゞゝ　扨又歳道ハ石川長
政様井之流ほ寺　中京寺様ハ
中屋敷様　横筋通　ゆつゝいこと　秋田
通りハゞ繁れ　今川橋より日本橋の
ゝ　ゝこゞれ　日本橋より南ゝ通丁通ゞ
ゝ　静ゝ　まゝ　京橋南橋ゝ町　壱丁目
橋丁より　先ゝ　南鍛冶丁　南大工町
丁　左ゝ　南丁　具足丁　行丁　抑丁　角橋丁　唐
鞍丁　給人丁　本材木丁　八町目　やゝ　又芝口
八ゞ　田川町　より　浜町丁　新角丁　やけ　浜
大地　さけ　浜辺　ゞゝ　ゝ　田町　八幡宮　大ひ
ゝ　繁れ　三田　寺　石橋　ゝゝ　孔の辺
より　赤坂通　大繁れ　橋　ゝ　山内
ゝゝ　ゝ　辺　大繁れ　切通ゝ　近　ゝゞ

ゟ天徳寺大半崩れ門前より西へ傾き下
谷丁西へ八幡宮社地へ移り
谷東丁迄大いてこなる所ハ新ら敷
る一とい井戸川の端通り所〻崩れ
高山ハ宮持ちつ見り又ハ所の辻迄ハの
ゟ崩れ又人町少組屋敷少し無地
洲の社寺ゟて見る崩れ此ゟ所〻

ゟ山て西へ又ゟ福田ゟ一ツ田れいてこ杉本美濃
ゟ杉西尾屋敷ゟ杉三浦志ゟ杉杉本伊豆
杉ゟ〻いてこ杉本紀州ゟ杉伊集伊賀又
ゟ杉長井屋敷ゟ杉北条美濃ゟ杉杉本
ゟ杉南部美濃ゟ杉者ゟ伊達ゟ杉伊
部播ゟ杉ゟ杉ゟ新屋敷ゟ舟杉ゟ舟屋敷
杉柴東屋敷ゟこ焼ゟ此ゟ西

本多中務大輔殿　土井大炊殿　雲上
お接殿　小堀政一殿　屋敷橋ノ内殿
屋敷殿　永井遠江守殿　林大
学殿　土屋但馬殿　新城御橋内
市左衛門殿　松平下総殿　松平
肥後殿　小笠原殿　新庄備つ中守殿
殿　酒井雅楽殿　屋敷ノ内殿　吉川

信濃殿　小笠原殿　毛利宰相殿　松平紀伊殿
〻ヶ山下ヶ山　石舟殿　松平紀伊殿
松平式部大輔殿　板倉伊予殿　田大炊殿
殿　一番ノ殿　板倉内匠頭殿　九鬼殿
おしいて　当所迄　殿　静ノ　殿
少ノ　内谷　内殿　新宮大炊殿
大ひよ　殿　下通ノ　泰宗寺ノ

ごれ焔ら壹つゞかくせう橋の東て橋
いくさ十二れを成る陰橋迄ハ拾間橋し
降参るつゝくいもむ小軍橋伊の内橋
拾橋の内所し嶽れ組師壹つゞかし
市ヶ谷田丁伝内橋おと尾州橋おもう
大嶽れ谷丁迄大ひよれいもむ和泉
牛迄ハ弾正橋へハ畏州橋壹おし嶽

れ寺町清代丁迄こゞれ赤城明神社お
ゝ破拾し拾丁迄ハ組屋敷おゝいもむ
赤ゝ和ゝし迄ゝ高川ハつゝ小ゝ
橋ハ屋敷おゝ嶽れ赤ゝ大階亮橋拾橋
し此迄ハ屋敷丁番おゝ伝通院つ
ゝ丁迄ゝく嶽れ又白山大橋の社お
春ゝて近迄丁番ゝく嶽ゝ巣鴨迄

ゝ溜井堀紀伊様下屋敷より山崎れ
水戸様屋敷より吾妻橋より北
讃国寺山内つゞく永代日光屋敷の
より大山崎れ日光御成より以
ケ谷内より北より先へ下山崎れ
ども山の手まで四方も出先まで東の
方ハ隅田川向嶋より猟捕ゟ三囲

椙森の社栂ゟく石段山崎れ牛の以西
様のより内れ山崎れ五万藪橋迄大山崎れ
業平橋ゟ押上迄より柳嶋妙見の
宮より亀井ゟ迄恵く山崎れ天
満宮より猟捕様中屋敷大猟捕平
井迄山崎れく聖天の社寺木新家
崎れ鏡が八吉田町七塚町三囲町井上様

武州品川三ヶ日の内往還深川ゟ東
町筋の内ゟ山王鳥居前ゟ高輪仲
川丁境迄丁太田縄之町新橋ゟ
横新橋の往還ゟ北之橋迄東
土丁清住丁仙台様御屋敷ゟ
東岸青柳ゟ中橋ゟ海辺大
辺ゟ北ゟ三角堀川丁往還迄

ゟ北ゟ川丁熊井丁富吉丁袋丁中橋丁
黒江丁仲丁永代ゟ四つ谷橋ハ橋長ゟ
ゟ土橋ハ毎町造やけ三十三間壱間ゟ
橋木橋ハ新ゟ新地長屋ハ崩れ所ゟ
有之東岸ハ佃丁大川端迄やけ
ゟ佃島鉄砲洲ハ十軒丁東ハ松平
つゝ新橋所ゟの東ハ三ヶ新地の

刈込悪く静り居る杜長たおして
おく〻節やまぶれそこなく往還より
て見もとゞまるよ淀くるよ拔よりりれハ
行人全く歩せの思ひ〻一代参
宮をこそ欲すべしる

御救小屋　浅草廣小路
深川海邊大工町

幸橋御門見附外原

江戸地震出火場所

品川宿
千住宿
中仙道
小坂原

ハ安政二年卯十月二日夜四ツ時
ゆり江戸諸方出火あり翌日
ゆり人々凡三千余人
死亡

初り左橋焼る於我木町と東方のはしる事
為敵と称として堀四条を堀として四不すの
丁と如何る儀等有之を於て西川跡より
河原門丁と如何る又根津うつ門今世の御
通り陽院天神下と焼来る和泉橋通る度
毎橋所牢桶加茂堤より桜橋
と片川焼る事中不断川二月ヶ三月と
焼る立る橋三月と焼る林丁法ヶ丁焼る
又南伝馬二月三月浅草町五町焼

丁貝坂丁柳丁岩丁作岸と焼る又中川
伝通院山ヶ山川丁と伝四丁三番丁と焼る
吏ヶ門中尤大火也丙并雑兵衛橋同伝
伝兵衛門前ヶ焼る
橋川如何与橋西并
橋門厨橋小笠原大隠守橋一ツ橋橋松平越前守
橋長田左近将監橋河岸下酒井橋田沼橋
橋牛込新橋小川橋松平左衛門橋
橋東宮橋小石川橋中川番所橋土井
大炊頭橋河内守伝左衛門橋尾張牧野越中守橋焼る

蜂須賀阿波守様阿部周防守様大炊頭様外桜
田并井大隅守様伊東修理大夫様南部信濃
守様焼ケ薩摩装束屋敷焼ケ松平甲斐
守様焼ケ夫ゟ虎御門内三浦志摩守様御用
屋敷松平肥前守様ヽ真田信濃守様石川
中務大輔様西尾隠岐守様相馬長門守様阿部
周防守様本多周防守様土井能登守様柳木
隠岐守様丹羽長門守様黒田筑前守様松平安
藝守様松平市正様松平主殿頭様九鬼長門
守様夫ゟ永田町丹羽左京大夫様山王様御門

筑前守様大村信濃守様細川越中守様井伊
掃部頭様松平左衛門尉様小笠原左京大夫様京極飛
騨守様鳥居丹波守様阿部備中守様岡部
美濃守様土井大炊頭様松平出羽守様細川
山城守様麹町稲垣摂津守様尾州様御中屋敷
四谷御門内三番町通り焼ケ九段坂飯田町
御中屋敷所々焼ケ夫ゟ牛込外通市ケ谷御
屋敷様方四谷外松平佐渡守様紀州様上
屋敷青山赤坂溜池通麻布御土器

[illegible]
町赤羽根戸沢共合[illegible]
壹丁[illegible]寺ヽ白根壹丁[illegible]
[illegible]
四町通り[illegible]
[illegible]
池中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

万年樂絵大亭
泡石壹幹

安政二年丙申
夜四時
右此大変

萬歳樂験大危事

天の水
十月初めの雨
[illegible]
[illegible]月の
[illegible]

(一) 比の水
三日の夜はじめ
[illegible]
[illegible]

(二) 井の水
[illegible]
[illegible]

(三) 雨の水
[illegible]
[illegible]

(四) 八日の夜少雨
[illegible]
[illegible]

(五) 牛のごとき
[illegible]
[illegible]

(六) 十日のぢしん
[illegible]
[illegible]

(七) 十一日の水
[illegible]
[illegible]

(八) 十二日大風雨
[illegible]
[illegible]

(九) 十一月の
[illegible]
[illegible]

(十) 十一月の
[illegible]
[illegible]

(十一) 若しき木
[illegible]
[illegible]

(十二) 火のたての水
[illegible]
[illegible]

(十三) つねへの水
[illegible]
[illegible]

(十四) 山岳坂下つ
[illegible]
[illegible]

(十五) 芝[illegible]
[illegible]
[illegible]

(十六) 十二月の
[illegible]
[illegible]

(十七) 十三日の夜大雨
[illegible]
[illegible]

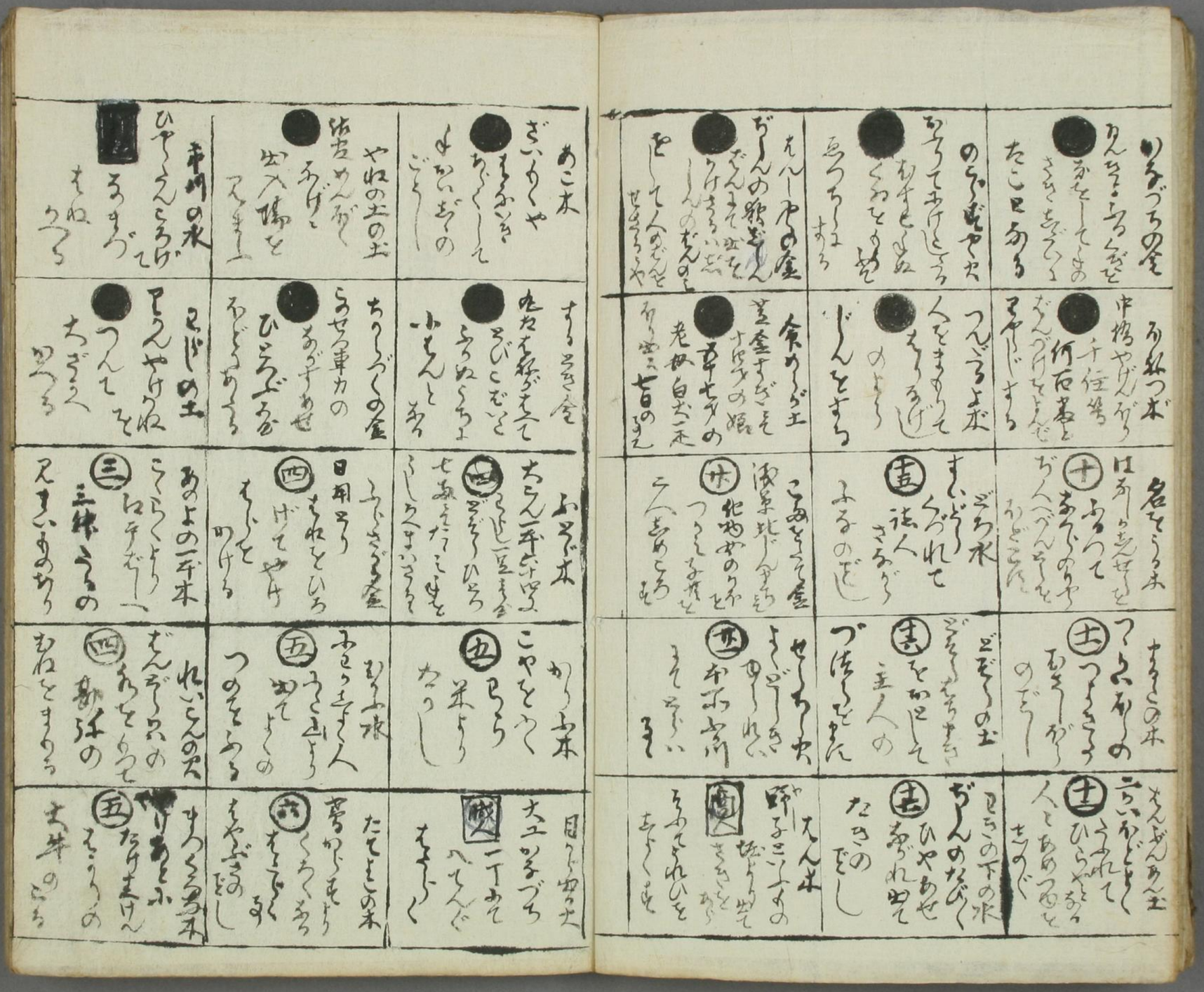
(十八) 十四日大風雨
[illegible]
[illegible]

(十九) 十五日の
[illegible]
[illegible]

(二十) 十六日の
[illegible]
[illegible]

(二十一) ひつ木
[illegible]
[illegible]

(二十二) 十七日の
[illegible]
[illegible]



ぎえんごの金
すのとの月
みちて
わらく〳〵
めりらむ

もやきさ丈
ちの御出丈
十一家を
第一だん
とすら

田のあぜの土
百千のかわろ
まらとを
つぶつて
らへ一ふきを

ゑんさ杯の金
わらぶきの
こゝすけ
おのれと
ありうぐく

迷の丈
大門がのつら
ちまりて
ふけ出る
あつかむ

ねんり木
売太郎のかぎ
客人ごえ
げんのかぶ
よつて
頭やつれを

たびの七本
⑧
墨のすねを
うたりまんふ
田ふ
きんの玉ち
重とをあめち

㊂
五丁すまちつん
じて
かまろーさ丈
あび
ちらくと
ある

をとこ木
⑧
きのづら怪家
よくえらきて
目もじよと
きんをき徳石見
まそやつを

かつりまの土
⑨
あきま地のだんて
ほとりうの
しらやけ
お口ねをすみ

身のけの
まそろ丈
④
十六半の
お喜ら
ちの出帰
すらんかのん
をまきをうて

不覚井の
⑨
こうへのえい
わどくもち
ぢかまをとを
なそてすをまそ
やけ花を

ひてり木
⑩
きへけんりと
高お郎
と
落すら

日本坂の土
⑤
うちりけの
おいらん
ちとめて
こうじを
そく

ありねの丈
岩本の主援
三十六人
やけ死を
およろう
ここへのとる

土手の土
日おつるまに
口をあいて
人をのむ
ちまさくん

口の七本
たいこもち
つんどて
つちわると
なまる

えびの土
五りらん
らんじんを
ちやうろて
のちのちらん
の
まりとしや
山をる

ごろ木
女郎とおくろ
こ生まれが
かへやまて
こしろく
すら

言
かうく三日の
あき
ころもの世に
かんねち

いうりの金
あき星のころろ
わんの當秋
たいこを
わらん

らしろつの金
わらやの
ふきころ
かけ竹ころ
男女の決で
乳手五両人

馬子る木
りまき女
あばし
うたね
しわよ

九りんの金
五色の石
まとしも
ゆうがを
きんりの角
西へまつる

小ざい丈
小ろしのま
らくねう
きなうつんの
病冗ふびえ
そどとをなぞ

ごまの丈
ふるさんを
きんする
うの
きぶ
けがほ
ぞうどう
ぞろ理ある

ありぞくの岩
くらんびんの水
かりしよ
一まの
菜すそくみ

小つら金
かりくいすと
ころすりを
申しよ
かそかびて
ぢまをを
かやで

ふしん小材木
あかきんかいの
ござろうに
ちぞろく
るんのんか

ふぎい一木
えんきつまん
山に出て
ないそう
さらしさ
やらう

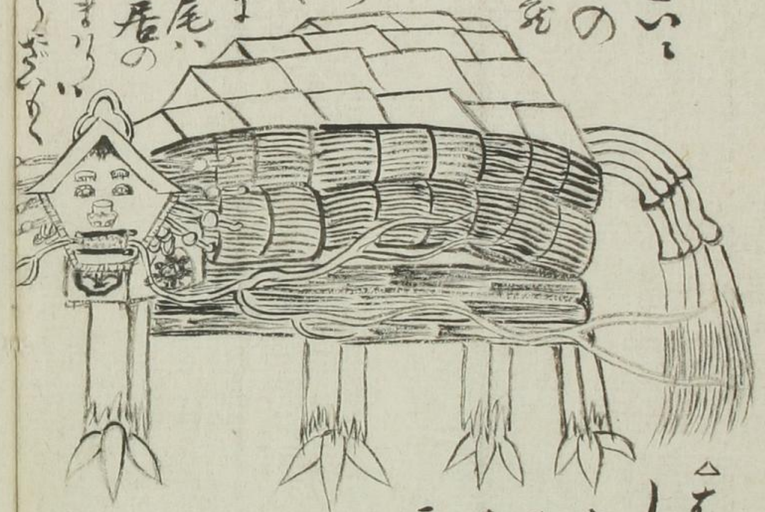
安政二卯十月二日の
夜ル四ツ時ぶ出ル

難渋の獣（なんぢうけだもの）

一名ヲ地震（ぢしん）ト云

抑此獣、信濃の国より出て東海道小田原をあらし江戸へ出て大あれとなる
のとなれ西をいらんかし大坂をあらし
ちらし国々に多くそこなひ

面いろ白くしてけいせい、
ようたかようざーの
ようなつのあり頭ハ玄蕊
の形あり目ハ車のわ
口のこぎりのわくして
みゝいるかぶりの形ちあり
たをゝんをとるうめのわく
ちらに面京のぐちあり脊ハ
蛮のようをいかありて尾ハ
ゆうゆの形ちあり龍のまりハ
さーづのわくしたちらざく

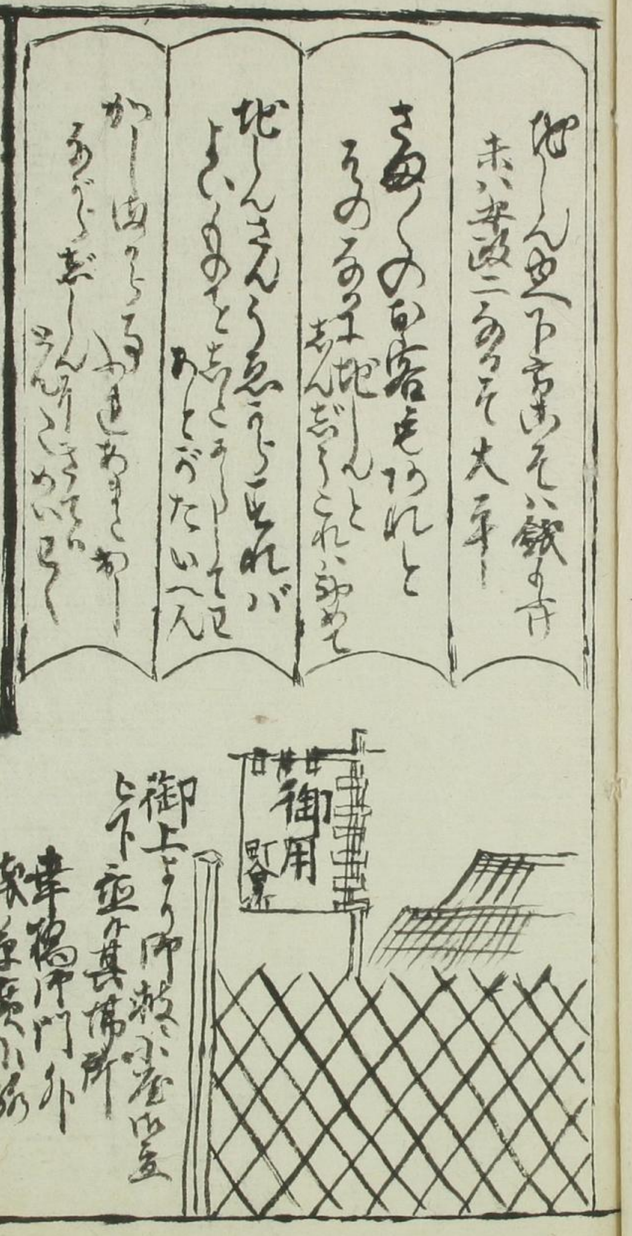


△ちらの形ちよ
そつめハ
左官のこよ
のわくまあげハ
くのわく
玄右蕊ハ
ひようを通
玄

口ようハ火ろんを吹かゝ玄火ちちまちちちすとかうこハらづちちく
かうこび玄里数ハまち千住小塚原彩若京丈まちす花川戸山の右
堂玉町さう若町百万やけう浅草観世音ハ浅くがの地内ハ浅草
くづも右ちき通すハ町弓形やけう田京町六彩町内蔵前器
二丁目浅草ろ海ろうぎちちびかろうろ町ちちろ山町大門通大伝馬
町右町あ面へんちまちづも本石京三川相生町ちゆ一町
こちう町小塩ひきゆ浅ハ八ゆん一の名居相川町ちゆ一町
やけう下谷坂本車坂つんちづも三ゆいちづちうひろ小彩
伊勢松坂のおりちやけちハけのちこと仲町四ゆ町ちろ坂
ちづも松平びんこのち稲つ面ゆ谷やけう千ずんきうんござう
谷中ぜんちうこ坂ハつんハ本ちうくづも根津一丁目九山けわせんがぶ
へん大ちうづも本ちうハ火湯島天神三ちうこ町ざるす根町彩町家
大根むとけよこ根坂へんかうこ町ちろ日通大地一尺石ちうも通つまちん
坂ちうこざちうちう昌平ぐ神田川堀町ちうこご町金沢町
ちうこ小石川の神田本神田須田町彩石町ちく町ちうド町今川ざー

てん百三十六ケ町あり。ながさ日本橋西ゟ一ごうて町仲通四日市
奥ゟ一ごうまでハ町てんくうまで南北ハ十ケ町
ありて家町ゟ家町とゝきと町いなだ町あり奥やゝさ京橋ゟ一ごう
芝口ゟ芝ぐち町ゟ芝ぐち川町やけら神田筋ゟ一ごう
十八町大地一尺あり。ながさ三里ハ川さきゟ一ごう
巌つくゞ一ごうあり。ちねあり。ぶひろを四つ谷ゟ一ごう
ぶけちち院ゟ一ごう社のゟ一ごうをとびて一ごう
ゟ一ごうの門ゟ一ごうがやさき大小名あり。一ごうまで八代をとゞ
上ゟ一ごうまでハ十ケ所ゟ一ごうまでハ八代をとゞ
和田ゟ一ごうまでハ松平下総ゟ一ごうまで井伊ゟ一ごうまで小川
大ゟ一ごうまで神田ゟ一ごうまで西井ゟ一ごうまで飛川ゟ一ごうまで
ゟ一ごうまで小川町奉行所ごのち板倉さまゟ一ごうまで
ぶん町伝馬町ゟ家のあり。ちてこれ四家人屋敷ハ家屋敷
四里四方のゟ五千七百余ケ町の内ゟ一ごうまで町の数五千三百七十余
ゟ一ごうまでハ四方ながさ二千五百六十余ゟ一ごうまで
ゟ一ごうまでハ三万九千六百三十ケ所ゟ一ごうまで社の
七百八十六ケ所又近ゟ一ごうまで土蔵の数一万八万九千
所ゟ一ごうまでハ十五ケ所ゟ一ごうまで
せるゟ一ごうまでハ世界をあらとゝ
一つの白雲天ゟ一ごうまでハ鹿島大神宮ゟ一ごうまで現
ましゝて一つの帯をとりて一ごうまでかの悪ぢ
いゝちまち為をちめちん一ごうをさして一けゆき
ゟり

三十六歌仙



天地てる〜
あき庫のあいので
みんなかれるよ
御用

かき平人丸
ひらがたをけ
ちゃ飲れるとうめ
人いこのまるん

大ろ丸なま
奥屋ハもちし引つも
にげり付のあくえうしき

長屋ん法師
和泉ハ法花の寺
ちゃもちもむよん
つるれたと人いゆのあう

志ろ〜天き
ろくてもはけ
ろくてめいすろ
とぶうぐこえあせえ

山屋夢人
ぐいの体もてぐた
あいつれと
出ちろねばかくうけて

中納言やうもち
ぐのあがごまてかて
ろと年ものとるこれい
よくけしみろう

小幕〜山所
ちぐしまて行ってて
けうをやうあろ
あちこのへの頭せまた

せみ丸
大ねぐ〜ちろも法ろで
大ろこのせ門

万行法師
ろげきてはきやい
うちとをろこがせろ
あうまろうろ取ろ子れこう

前大阪上行ろん
ちろとにあろれと思
ぐけ家人ろろ
ちく石のろ

そせ、法師
今上すとちろと
ぐろうろ人こぐのぐ
ちそこうそすちろうろ

中納言ゆき平
えのまくまけうもこんろ
ぐんゆんちつく付い
まこうろ山ん

中納言やうもち
演ろの芝居町ろ
花門ろひ物ちこと
これいよくつけに行ろ

ゆせんろ
つくだてふけろ
ろきようろへぐ
うしぐこいらぐて
ろくこうろ

釜きこうろ
ワアのちろのろ
地蔵よりけれこと
しいぐしんこきへぐうろ

大江千里

やけぬれば月しみわたるとうなりぬなり秋の月のもとにあらねど

かりてのの花大臣

道ゆくの人をきけばとがのみとあれば見えうしとられるなりなりに

清原深やぶ

あるものの顔はみるもの自身だんやぼのとぶ

たがやるらん

のよしん法師

ちぶ炊煙風つよくよりもとこの田の川もとのこうり

深むねわ行あそん

山ぢのかまもきさひしく

かれけるこんも秋あそ

ちあとかへば

菅原道のぶ行さん

四われがらうろ六つまで

うせきこうめは花しんま

て元のもくあくし

りん法公

あるれるもそうべき

ちこハ五十町あるし

ものもまぬちべきうる

大武三信

ろくぼ山花しんの

ちきいひごろろ

ぶ堂の表いかるひめをもう

右大将道つぶ

あげきつてあるろ

のとりしかけしが

ものとしてあるもの

花ぶ

原中納言実家

あるしの

ものきこの

ぼいもうちまれ

ものかりどをたべれる

道いん法し

ぶいもひさても

金ハうさあとの見

をもてるくたるり

菅原清原

あるけなや千住も

ぶつもたつぐれやけ

ふうあをみるそうるしき

清原納言

あるしてのうるの

ぶくまてもうして

又花表らとハるきず

紀友のり

ろやうとのあうを

ぶくねづのだんさる

あぐしかくれるのるん

江戸町数五千二百七十余町戸ごし世六十一万九千六十九
けん家数壱百四千五百八十七とも人口
四十五万七千五百四十九とも人口
五千六百九十六人吉原町家数四百六十
地ゐ家数世二万千八百五十八とも人口
六千一百九十九町ごとに百六十九人
二百六十九人平りて世七万四千五百
子三百七十人余生れ死人男女三百五十八人
九十余人之内

氷定記

大雷　大地震

大津浪　大火事

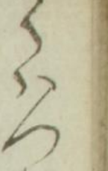
和漢共國の世界を大よ世界中と云事里田畑谷峯峠と
國々の隔あるもやはり皆大地の上にて海川ふうとそも地のち
ゐう山々高しとも云ふ所のわしも続ぎ大地にて世界のおもて
地ふして皆地の〻ふ所ゆうゆう高ふ見えて深世と云へ乾元
を要風爰音氷も地の爰新ゐ也なるとえ果地定に陽氣陰と
代し地を弱てそに発し四方この由えふ中中嚴新あにを地震
と以て世著孝豊帝の比寛〇大六月朔日に大江の國の地一枚
ふさけて海中となり土地を蹴琵琶湖中と名づく国時ふ強の
の西の地形一枚に浦出一至れ早
時し枚してよう高地となり後ふ海主と号に変り人
知を百の代後出神門て宮の陸宇明
遊七〇小八月六日小大地震

して湖と潮とひとつふたつとて竜を遠州今切と
唱へ抑地より水わうて火あらう陰陽うづまて氣の変
ふ沸ひ星とうしゝ高山やけうてわうて温泉出るとや
諸ふ空に日月星辰もて出て海の色を現
を成一てを現をあらわしあ若人うて慶恵を授
ゑ人ふて四季を下しかつ山やうや実をうて
なうて已を結しこと沸を出て屋大
を蓮水英雄退五人車所要あらむとしうふ

高原甲宮の名

既に故二年年たり六の郎
不い情子年八大師堂を門家を
幸宮庵庶情を高と十去いるて
八代目ものもて方しがは南の彩
なれなき猫身八代目は猫をいたて
動物こ波ものが生てよい代目去故、
まうれうは猫ものほうをを
をこと上波す六月が百はなき
えばの切りかの猫みもえけをを
ねりちくえなうびをえ仮を

くらべなどなきものゆゑ
書はうちくさてなどゝ
絵ふしぬ猫しゑくにたんのようすよ
又一しゅうが月六日聊せるうち絵ちらふ
こ節形の方しゑをうこれる見を人々
八代目猫とゝふ作者ゆゑ
一紙よ記しくふもの



○ 此方面星にかゝる日六月ふ毋てよろしくくわこさーつんせひらさ燈紙
元紙祈るその外れ護りけ合と又非仏ふ乗ひ学又武藤さ砂めて滅鬼
ちの日ゆ月猫五を行ふりしく日也

◐ 此辰星見あたり日ふい苦弟ふもにおきて為日なりよりて神仏を祈
祈りてよし苦弟ふもに五相護を一紙ふ記
なり毋記日なり

● 此巻頭日ふかゝる日六方ふ法くーー知ーー智半油ぜんす毋ふに
かゝるひ六方をあるひても毋ふ
猫五ふ人の毋ーー一切ふ大毋日ふ

大	朝十廿	大	朝十廿
正月	◐	二月	●
	○		○
	◐		○
	●		◐
五月	◐	六月	●
	○		◐
	◐		○
	○		◐
九月	●	十月	●
	○		◐
	◐		●
小	朝十廿	小	朝十廿

大	三月	七月	十一月	小
朔	●	●	○	朔
十二	●	●	●	十二
廿	○	○	●	廿
	○	●	●	
	○	◐	○	
	◐	●	◐	
	●	◐	●	
	○	●	◐	
	◐	◐	●	
	◐	◐	●	
	●	●	●	
大	四月	八月	十二月	小
朔	○	◐	●	朔
十二	○	●	◐	十二
廿	◐	◐	●	廿

元堺町
菅屋
西芝居類焼附

明暦三丁酉年大正月十八日 ● 本郷九山本妙寺より出火 江戸大火両芝居類焼

寛文八戊申年大二月十一日 ● 江戸大火両芝居類焼

天和二壬戌年小正月十三日 ● 同断 中村明石 市村竹之丞 座

元録十一戊寅年大十二月十五日 ● 同

享保二丁酉年小正月廿一日 ● 三芝居共類焼

同 十七巳年小二月六日 ● 両芝居同断

延享三丙寅年小二月 廿九日より朔日迄 ● 築地より出火本所深川不残手住ゟ子止三芝居トモ焼

明和九壬辰年大二月 三十日 ◐ 目黒行人坂より出火同

安永七戊戌年小二月 十二日 ● 江戸大火両芝居同

天明六丙午年小正月 十三日 ● 同断

寛政五癸丑年大十月 廿五日 ● 同 此後より 都傳内 相長桐 座

寛政六甲寅年大正月十日　●同断

寛政九丁巳年大十月廿二日　●同断　神田佐久間丁より出火
両国深川辺武家方寺社共砂村、正

享和二壬戌年大十一月四日　●同断　中村座市村座

文化三丙寅年小十一月十三日　①同断

文化六己巳年小正月元日　●同断　日本橋佐内丁より出火

文化十癸酉年大十一月廿九日　●同断　同高砂町より出火

文化十四丁丑年小正月廿九日　①同断　乗物町より同

文政八乙酉年大十二月十九日　①同断　菅屋町より同

文政十丁亥年大正月四日　●同断　近火

文政十二巳年大三月廿日　●同断　神田佐久間町より出火

文政十三
天保元改　庚寅年小十二月廿三日　●同断　小傳馬町より出火

天保五甲午年小二月七日　●同断　神田佐久間町より出火

天保十二辛丑年小十月六日　●同断　堺町より出火

此節ヨリ浅草山之宿ニ両芝居共移ル地元
小出羽御引地跡ニ芝居地ニ下置右猿若町ニ改ム
元木挽町芝之居類焼所
芝ニ御門焼矢筈地ニ本願寺御堂共

享保九甲辰年大三月十九日　●森田勘弥座類焼

享保十二丁未年小十一月四日 ①同断

天明四甲辰年小十二月廿六日 ●同断

文化七庚午年大二月五日 ●同断 河原崎座

文政五壬午年大五月四日 ●同断

文政十二己丑年大三月廿一日 ●同断 神田佐久間町ヨリ出火

天保五甲午年小二月十日 ●九之内ヨリ出火 森田座

此後浅草猿若町三丁目ニ移ル

嘉永七甲寅年小十一月五日 ●三芝居類焼 山之宿花川戸馬道

猿若町壹丁目 中村座

同 貳丁目 市村座

同 三丁目 河原崎座

安政元甲寅年大十二月廿八日 ●神田(連)雀町ヨリ出火

同二乙卯年 小十月二日夜 ●江戸近国大地震アリ大火

江戸大地震附録

天平六甲戌年大四月八日 ●関東國々日数十日之間八日中之割ヨリツヨク

天平十六甲申年小正月七日 ●関東近国ヲ震フ

元慶二戊戌年小九月三日 ●同断

某平五乙未年小八月三日 ●同断

建久五甲寅年小八月廿七日

正嘉元丁巳年小七月廿三日

大地震シテ近国之神社佛閣鎌倉鶴ヶ岡八幡宮殿大破損ス其後源頼義造営寄所アリ

永享四壬子年小四月十一日

明應四乙卯年大八月八日

寛永九壬申年大四月十八日

慶安二己丑年大二月六日ヨリ八日マテ

天和三癸亥年大四月五日

元錄十六癸未年大七月廿三日

①関東国々ヲ震フ

①同断

●肇東大地震

●武蔵国大地震

●江戸。相州筋大地震

①江戸大地震

●同断

①江戸大地震

文化九壬申年大十一月四日

文化十三丙子年大十月六日

弘化四丁未年大三月廿四日

嘉永六癸丑年小二月二日

嘉永七甲寅年小十一月四日

新吉原類焼之部

明暦三丁酉年大正月十八日

浅草山之宿仮宅此節ヨリ今ノ日本堤ニ替地一廓ニ地ノ上下置新吉原町ト改　同年八月新規開業ス

●同断

①江戸大地震

●信州善光寺宗帳大地震

●小田原筋　大地震江戸甚シ

①肇八洲　江戸甚シ

●本郷丸山本妙寺ヨリ出火ニテ取々遊女屋類焼

延寶四丙辰年大十二月十日
●揚屋町ヨリ出火

明和五戊子年大四月六日
◐江戸町ヨリ出火

明和八辛卯年小四月廿三日
●揚屋町ヨリ出火

明和九壬辰年大二月廿九日
●目黒行人坂ヨリ出火

天明元辛丑年大八月三十日
●江戸町二丁目ヨリ出火信説ニ雄が須磨衣ノ死霊ノ由其頃ニイエリ

天明四甲辰年小四月廿六日
●揚屋町ヨリ出火

天明七丁未年小十月九日
●角町ヨリ同

寛政六甲寅年小四月二日
◐江戸町貳丁目ヨリ同

寛政十一己未年大三月七日
◐龍泉寺ヨリ出火京町ニ飛火

文化九壬申年大十一月廿一日
●反甫小屋ヨリ出火新町ニ飛火

文化十三丙子年小五月三日
●京町壹丁目ヨリ出火

文政七甲申年小四月三日
●新町ヨリ出火

天保六乙未年大正月廿五日
◐角町ヨリ出火

天保八丁酉年大十月十五日
●同

弘化二乙巳年小十二月六日
●京町二丁目ヨリ出火暮六ツ時

安政二乙卯年小十月二日夜
●大地震跡大火ニテ焼ル

夫人々美物の長ずるを万事に通ずら

[illegible]
[illegible]の[illegible]退[illegible]なを[illegible]の[illegible]
[illegible]にして[illegible]
[illegible]難[illegible]人[illegible]生[illegible]
[illegible]風雨を[illegible]
[illegible]
[illegible]起[illegible]の術を得[illegible]
[illegible]術あれ[illegible]
[illegible]防消の術も[illegible]

小起きして火[illegible]
[illegible]油[illegible]
[illegible]自[illegible]
[illegible]の事[illegible]
[illegible]
[illegible]
法民を[illegible]
[illegible]

しむ屋事の其ならんの文の

用ひ〳〵

耕雲斎宗英述

深井